



門真四中だより

「つながる」「わかる」「切り拓く」

令和5(2023)年6月5日

第17号

編集・発行：校長 上甲 尚

1年生「いのちの授業」



1年生は2日(金)の3・4時間目、助産師の重水育美さんを講師にお招きして「いのちの授業」を行いました。助産師をめざす看護学生も2人、お手伝いに来てくれました。

「いのちって何だろう?」というお話から、思春期の体の変化、赤ちゃんがお母さんのお腹の中で成長する様子、「いのちを大事にすることはどういうことか」など、お話を聴かせてもらいました。実物大の赤ちゃんの人形(3000g)を抱かせ

てもらったり、受精卵の大きさをハート型の紙に開けた穴で確認したりなど、わかりやすくお話していただきました。1年生の皆さんは真剣に聞いていましたね。以下はお話の概要です。

- 助産師は、赤ちゃんが生まれるお手伝いをする仕事。要請があれば日曜日であろうと深夜であろうと駆けつけます。女性しかできない仕事です。
- 命が一番大切なもの。受け継がれていくもの。一度死んだら生き返ることができない。
- 思春期の体は大きく変化します。①二次性徴②急速な成長③個人差がある
- 体つきが変わり、心も変化します(いろいろな悩み、不安定な気持ち、性への関心など)
- 思春期は「自分探しの旅」
- 人には「プライベートゾーン」があります(水着とマスクで隠れる部分)
- 卵子は月に1個、生涯で400個ぐらいしかできません。卵子と精子が出会って、受精卵ができ、赤ちゃんが生まれるのは奇跡的な確率なのです。
- 赤ちゃんはお母さんのお腹の中でおしっこはするが、ウンチはしない。
- 赤ちゃんは自分の生まれる日を選んで生まれてきます。雨の日や満月の夜に生まれることが多い。
- 赤ちゃんは3時間毎に授乳しなければならない。家族は一生懸命子育てをします。
- 命を大事にすること=自分を大事にすること=周りの人を大事にすること
- しんどいことがあれば、信頼できる大人に相談してほしい。
- お母さんは命がけで赤ちゃんを生みます。陣痛の痛みは、赤ちゃんが生まれると大きな喜びに変わります。

ひとつの「いのち」が誕生するまでにどれだけ奇跡的な営みがあるのか、「小さいいのち」がどれだけ愛情をかけられて育てられてきたのか...。何かを感じ、考えたことと思います。

「みんな生まれてきてくれてありがとう」

心肺蘇生・AED研修



1日(木)の放課後、緊急時の対応として、心肺蘇生・AED研修を体育館で行いました。今回初めて、各運動クラブの代表の生徒にも参加してもらい、先生方と一緒に研修しました。

目の前で人が倒れた時の対処法、AEDによる心肺蘇生の仕方などを学びました。みな真剣な表情で臨んでいました。学校は多くの人と共に生活をする場所なので、いつ何が起きるかわかりません。1秒でも早く、適切な対応をすることができれば、「いのち」が助かる

可能性が高まります。万が一の時のために、知識を得ること、備えをしておくことは、とても大切なことです。参加してくれた生徒の皆さん、ありがとう。今回学んだことをしっかり胸に刻んでおいてください。

花の植え替え

3日(土)の午前中、PTA3年学年委員会主催で「花の植え替え」と「セアカゴケグモ退治」を行いました。前日までの雨天とは違って変わり、日差しが強い好天でしたが、PTA3年学年委員会の方をはじめPTA本部の方、四中校区地域学校協働本部の学校支援コーディネーターの方、地域の有志の方も参加してくださいました。女子バスケットボール部の人たちも手伝ってくれました。本当にありがとうございました。きれいに花を植え替えたプランターが、体育館周りを鮮やかに彩ってくれています。体育館周辺の側溝に生息しているセアカゴケグモの退治も行いました。



2学期はPTA2年学年委員会、3学期は1年学年委員会主催で「花の植え替え」を行う予定です。いずれも土曜日の午前中に行います。またご協力いただければ幸いです。

脇田小、砂子小最後の運動会

3日(土)の午前中、校区の脇田小、砂子小の運動会に4年ぶりに来賓(四中代表)として出席してきました。前日の大雨でグラウンド状態が心配でしたが、朝から晴天に恵まれ、問題なく行うことができました。多くの保護者の方が来場し、とてもにぎやかでした。四中生の姿も結構見かけました。妹、弟の応援でしょうか。砂子小では「借りもの競走」にも参加していましたね。

低学年の児童の可愛らしさを微笑ましく思い、高学年の児童の懸命な演技に胸を打たれ、とても清々しい気分になりました。やっぱり運動会はいいなと思いました。来年4月に両小学校は統合し、新たに「水桜小学校」に生まれ変わります。脇田小、砂子小としては最後の運動会ということになりました。